

講義コード	515102302
講義名	乳児保育II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	穴戸 良子	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

3歳未満児の発育・発達の過程等に即した生活や遊びと保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。乳児保育の基本的な考え方を踏まえ、指導計画の作成、援助や関わり、配慮の実際について理解する。

授業の到達目標及びテーマ

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、説明できる。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、説明できる。
4. 上記の1.～3.を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解し、実践できる。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児を指導できる。」と「6.自主学習・自主自律を実践できる。」と「7.他者との協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」と「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。

授業計画表

回	項目	内容	予習
			以下の8つのテーマのうち、いずれか1つについて具体的なレポートを作成できるよ

第1回	保育実習の振り返りと学習課題の明確化	保育実習I（保育所）・IIの経験を踏まえ、8つのテーマのうちいずれか1つを選び記録を作成し、本授業での扱うテーマの具体的理解につなげる。	う、保育実習I（保育所）・IIを振り返っておくこと。 ①子どもの1日の生活の流れと保育の環境 ②子どもの生活や遊びを支える環境の構成 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 ④3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 ⑤子ども同士の関わりとその援助の実際 ⑥子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 ⑦集団での生活における配慮 ⑧環境の変化や移行に対する配慮
第2回	乳児保育の基本	子どもと保育者との関係性や個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて学ぶ。また、子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて学び、子どもの体験と学びの芽生えについて理解する。	
第3回	実習からの学びの報告会	第1回の授業で作成したレポート内容を割り当てられたグループ内で発表し合い、8つのテーマに関して学び合う。また、8つのテーマにおける今後の学習課題を明確化する。	
第4回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①	子どもの1日の生活の流れと保育の環境や子どもの生活や遊びを支える環境構成について学ぶ。	
第5回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について学ぶ。	
第6回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際や子ども同士の関わりとその援助の実際について学ぶ。	
第7回	乳児保育における配慮の実際①	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について学ぶ。	
第8回	乳児保育における配慮の実際②	集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮について学ぶ。	
	子育て支援ひ	子育て支援「わいわいひろば」に参加し、3歳未満児及び保護者への援助や関わ	オンライン子育て支援（リア

第9回	ろばへの参加と実践	りを実践を通して学ぶ。また、ゲストスピーカー（保健師）と保護者のやりとりから子どもを取り巻く環境や保護者理解を深める。	ルタイム)で実践したい内容をグループごとに計画・準備する。
第10回	長期的な指導計画と短期的な指導計画	指導計画について実際の指導計画から学ぶ。保育を振り返り、次の計画や実践に活かせる記録について学ぶ。	
第11回	個別的な指導計画と集団の指導計画	個別的な計画、集団の計画、個別の計画作成について学ぶ。また、保護者との連携について学ぶ。	
第12回	課題研究①準備	第9回での子育てひろばでの実践経験を踏まえながら、3歳未満児の個別指導計画の作成と実践を行う。	グループごとに、特定の子ども（3歳未満児）のある月の個別指導計画を立案し、戸外や模擬保育室等を活用し、計画に基づき模擬保育を行う。
第13回	課題研究②発表（個別指導計画実践発表会）	個別指導計画と実践の発表を行う。	第12回でグループごとに計画・実践した個別指導計画と実践内容（学んだこと、気づき）をまとめておく。
第14回	課題研究の振り返りと総評	課題研究の計画・実践・発表を振り返り、3歳未満児への援助や関わり、配慮について理解を深める。	
第15回	まとめ	授業の到達目標の確認と授業評価を行う。	

授業時間外の学修

予習として、テキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所の事前読了及び、演習課題の準備をすること。また、地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深めること。各回の予習には、35分かかると予想される。

また、復習として、授業内容及び配布した資料を熟読すること。各回の復習には10分かかると想定される。

実務経験の有無

実務経験者が指導の一部に関わる 例：行政政策担当者・民間企業・医師等勤務経験者による講義など

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
○	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
3歳未満児				

の保育に関する基本的な考え方	授業内容を100%理解しており、3歳未満児の発育・発達や特性を踏まえた援助や関わりの基本について具体的に説明できる。	授業内容を85%理解しており、3歳未満児の発育・発達や特性を踏まえた援助や関わりの基本について説明できる。	授業内容を70%理解しており、3歳未満児の発育・発達や特性を踏まえた援助や関わりの基本についてはやや理解不足の点はあるが説明できる。	授業内容の理解が60%以下であり、3歳未満児の発育・発達や特性を踏まえた援助や関わりの基本についての説明が困難であり、個別の助言や資料提供等を行っている。
3歳未満児の保育の方法	授業内容を100%理解しており、養護及び教育の一体性を踏まえた保育の方法や環境構成について具体的に説明できる。	授業内容を85%理解しており、養護及び教育の一体性を踏まえた保育の方法や環境構成について説明できる。	授業内容を70%理解しており、養護及び教育の一体性を踏まえた保育の方法や環境構成についてやや理解不足の点はあるが説明できる。	授業内容の理解が60%以下であり、養護及び教育の一体性を踏まえた保育の方法や環境構成についての説明が困難であり、個別の助言や資料提供等を行っている。
乳児保育における配慮	授業内容を100%理解しており、乳児保育における保育者としての配慮事項について具体的に説明できる。	授業内容を85%理解しており、乳児保育における保育者としての配慮事項について説明できる。	授業内容を70%理解しており、乳児保育における保育者としての配慮事項についてはやや理解不足の点はあるが説明できる。	授業内容の理解が60%以下であり、乳児保育における保育者としての配慮事項についての説明が困難であり、個別の助言や資料提供等を行っている。
乳児保育の計画と実践	授業内容を100%理解しており、月齢や状況に合った保育の計画を綿密に練り、その計画に基づいて環境を整え保育を遂行し、振り返りを通して具体的に自己評価できる。	授業内容を85%理解しており、月齢や状況に合った保育の計画を練り、その計画に基づいて環境を整え保育を遂行し、振り返りを通して自己評価できる。	授業内容を70%理解しており、やや月齢や状況に合致しない点があるものの保育の計画を練り、その計画に基づいて環境を整え保育を遂行し、振り返りを通して自己評価できる。ただし、自己評価がやや具体性に欠ける。	授業内容の理解が60%以下であり、月齢や状況に合った保育の計画を練ること、環境を整えること、保育を遂行すること、振り返り自己評価することのいずれかまたは複数の実践が困難であり、個別の助言や資料提供等を行っている。

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	20%	
成果発表	60%	・実習からの学びの報告会 ・個別指導計画実践発表会
授業への貢献度		

レポート	20%	
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
<p>発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用</p>	<p>PBL(課題解決型授業)</p>	<p>授業前レポート（予習） 授業後レポート</p>

教科書

『改訂 乳児保育の基本〈第2版〉』（萌文書林、2021）

参考書

『乳児保育の基本』 汐見稔幸ほか（フレーベル館 2007）

『基本保育シリーズ 乳児保育』 児童育成協会（中央法規 2015）

『乳児保育II 一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』 尾野明美ほか（萌文書林 2018）

SDGsとの関連

<p>1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう</p>

特記事項等

①実務経験のある教員

本科目は、実務経験のある教員（保育士）が担当する。

②科目のナンバリング

SUN2404

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

特になし。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp